

林野庁長官賞

プレカット及び建築業者の連携による新たな地域産材供給システム  
工務店活動支援し現場施工を省力化

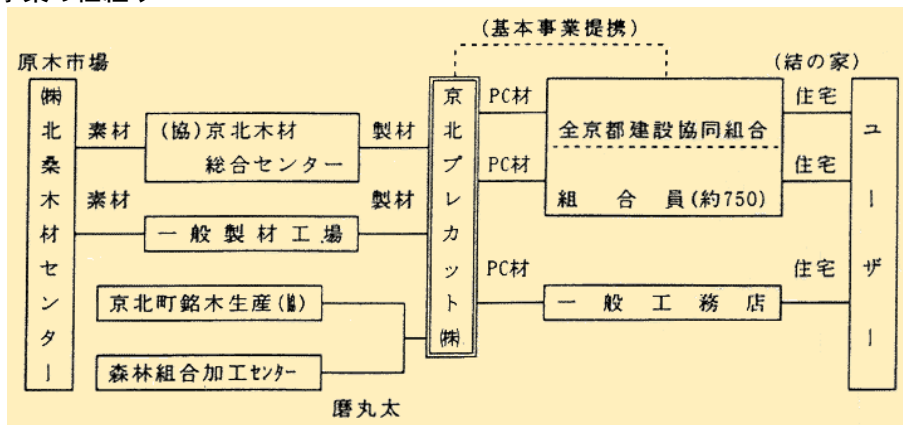
京北プレカット株式会社 (代表者 代表取締役 石浦 道男)

□事業体の構成

第3セクター (京北町、京北町森林組合、その他 (17))  
〒601-0323 京都府北桑田郡京北町大字鳥居小字昇尾  
TEL 0771-53-0061 FAX 0771-53-0071



□事業の仕組み



1 地域の概要

京北町は京都府のほぼ中心部に位置している。本町における林業の起源は、都が平安京に遷都されたとき御廂御料地と定められたことに始まる。森林面積は2万257haで林野率93%、うち人工林率46%と森林資源に恵まれている。現在では高齢級の一般優良材に加え、京都北山林業地帯で戦後、急増した磨丸太や町の特産ともいえる桁丸太など付加価値の高い林産物を産出するが、近年、スギ並材の比率も増えてきている。

2 事業内容等

(1) 事業の目的

小径木から大径木までの製材施設である(協)京北木材総合センター及び磨丸太・桁丸太の加工を行う京北町森林組合加工センターと同敷地内に、人工乾燥施設を有するプレカット施設を導入し、木材加工部門を集積することにより、木材の生産から加工・流通部門のより一層の連携強化を推進し、「京都産材」を銘柄化することによって付加価値を高める。また、工務店に対し磨丸太及びプレカット材の供給及びCAD/CAMでの設計支援システムによる建築図面の作成により、また、ユーザーに対し完成時の鳥瞰図、内外観パースなど提示することにより、工務店の受注活動を支援し府内産材の需要拡大を図る。

(2) 事業の内容

最新のCAD/CAMシステムを導入乾燥した構造材を全自動でスピーディーかつ精密にプレカットする。また、根太・間柱・筋交いなどを加工するフリー・クロスカットソーを導入し、構造材から羽柄材まで一括して建築資材を供給、建築コストの低減、現場施工の省力化や工期の短縮による合理化を実現した。

### (3) 施設の整備状況

平成4・5年度産地形成型林業構造改善事業（林産物加工拠点施設）で主な施設を整備、京都府単費事業（ふるさと農林漁業振興事業）で平成8年度に原材料保管庫及び従業員休憩施設を増設、平成9年度に羽柄材加工機を導入した。

### (4) 事業の実績

注) 年度は、京北プレカット（株）の事業年度で8月～7月  
提携棟数は、全京都建設協同組合との提携で建設された住宅の棟数

区分	平成6年度		平成7年度		平成8年度		
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
棟数(棟)	200	208	200	331	200	355	
坪数(坪)	8,000	7,364	8,000	11,895	8,000	13,639	
材積	国 (m <sup>3</sup> )	—	599	—	765	—	993
	外 (m <sup>3</sup> )	—	1,660	—	2,843	—	3,234
提携棟数	100	55	100	64	100	71	
け結の家	—	5	—	6	—	6	
売上高(千円)	—	229,532	—	300,625	—	383,190	

### (5) 事業の成果（事業体の評価）

- 山元とユーザーとを直接取り結ぶネットワーク化を実現するため、京都市内の地場工務店など約750社で組織する「全京都建設協同組合」と連携、基本事業提携書を取り交わし、国産材の新たな流通システムを確立した。
- 上記提携書でプレカット受注に関する営業活動や組合員との業務打ち合わせ、集金は組合が行うなど両者の業務内容を明確にするとともに、組合員が建設する住宅は全て、（株）京北プレカットが材を仕入れ加工することにより、府内産材の需要拡大及び製材品の高付加価値化が推進できた。
- 特に、京北プレカット（株）から構造材を、隣町の美山町森林組合木材加工センターからモルダーかこうされたスギの内装部材をダイレクトで仕入れ、同組合が設計から施工まで手がけた家を「結の家」と名付け、京都産材を使った家造りを進めている。
- 木材の需給動向に大きな影響を与える住宅建設にあって、施工費の低減など建設コストの低減、建築技能者の減少・高齢化に対応するための現場施工の省力化、建築工期の短縮などの建築業界の要請に応えることができた。
- 乾燥プレカット材の普及により、従来軸組工法による木造住宅の耐久性能を確保、末端ユーザーに対し入居後のクレームレスと家屋の資産価値を高める基本性能を確保できた。
- 平成6年4月（5年度）からの本格稼働であるが、翌6年度決算には単年度黒字に転換した。また、7年度決算から累積赤字が解消、同時に出資金の1%を株主に配当、8年度には2%を配当できた。

### (6) 今後の取り組み

- 建築技能者の減少・高齢化に対応し工務店支援の幅を広げるため、上棟まで含めた受注とする。
- 他プレカット工場との差別化のため羽柄材加工機を導入したので、この特徴を活かし、販路拡大を目指す。また羽柄材・プレカットのライン化を図る。
- 健康志向や無垢材志向の高まりの中、現在の主流である大壁工法対応ではなく、1等材の真壁での使用や天井を張らずに小屋組を見せるなど、「結の家」の特徴の1つでもある木組を見せる個性ある家造りに積極的に対応していく。
- 町内で土地を確保し、プランニングから木材加工・建築までをセットにした販売システムを構築する。